

# リージョナルステート研究会 平成17年度総会

開催日：平成18年3月1日(水)

会場：KKRホテル札幌



市村会長挨拶



会場の様子

## 分科会報告



自然科学教育分科会  
対馬一男 氏



観光分科会  
宮武清志 氏



循環技術システム研究分科会  
外 朝彦 氏



地域主権分科会  
須藤靖彦 氏



講演「JR北海道の技術開発」  
～デュアル・モード・ビークル (DMV) の開発と  
その活用について～  
JR北海道 技術開発部長 佐藤 巖 氏  
技術士 (機械部門)



DMV 試験車 (DMV 901)



DMV プロトタイプ (DMV 911、912)

### 自然科学教育分科会

平成 18 年度の主な活動予定をご報告いたします。

#### 1. 今年は盛りだくさんの寿都町での教育サポート。

今年度は、分科会の一大イベントである寿都町教育委員会が主催するサバイバルキャンプに参加しての教育サポートの他に、新たに5月のカキ祭りへ参加してのサポートや、10月にはサツマイモ掘り&試食などを予定しています。今年も、寿都の子ども達のたくさんの笑顔を見ることができればと考えております。

#### 2. さらに Power Up 白石区川まつり。

前年度は、白石区土木センター主催による川まつりに2年ぶりに参加し「水車発電実験」や「重曹を使った鍋の焦げ落とし実験」などを行いました。今年度は、さらに「環境」をテーマとしたメニューや、電球の規模を大きくした水車発電を現在検討中です。前年度同様に白石区在住の会員・サポーターが中心となり、『地域に根付いた活動』を目指し活動していきたいと考えております。

#### 3. 今年もがんばるぞ！ 小・中学校等での教育サポート。

最近では学校をステージとした教育サポート件数が若干減ってきておりますが、今年度はもっと積極的に取り組んでいこうと検討しています。まず、5月には定山溪中学校での「豊平峡ダムや青函トンネルについての話」を予定しております。また、過年度から継続しているサポートや新たなサポートメニューなど、それぞれの分野でプロフェッショナルである会員・サポーターが大いに活躍して、より多くの教育サポートを行っていかねばと考えております。

#### 4. 『New パンフレットを作成中です。』

現在、多方面の方からも意見を頂きながら対馬座長を筆頭に新しい分科会のパンフレットを作成中です。今年度中には完成させ、パンフレットをフルに活用して、より多くの方に分科会の活動について広く発信していきたいと考えております。

これらの他、定例分科会、清田区における重点活動、キタヒロ昆虫隊との活動などを予定しております。

今年度も会員・サポーターが一丸となって『エンジョイ&アクティブ』をモットーに活動を続けていきたいと思っております。



昨年度、寿都サバイバルキャンプでの一コマ

\*当分科会では、会員・サポーターを随時募集しております。連絡は、下記までお願いします。

座長：対馬 一男(E-mail: tsushima.k@ces.co.jp)

幹事：赤松 周平(E-mail: akamatsu@kai-koei.co.jp)

(文責：分科会副幹事 鈴木 正良)

### 観光分科会

#### 1. 平成 17 年度の活動報告

平成 17 年度は「観光振興のための社会資本の整備・利活用」をテーマに、主に講師を招いての勉強

会活動を中心に行ってきました。

勉強会は以下の計2回開催し、北海道観光や地域振興に関する多くの知見を得ることができました。

○第1回勉強会

話題提供者：成田 一憲 氏

(北海道経済部観光のくにづくり推進室長)

テーマ：「北海道観光の現状と課題」

日 時：平成17年8月5日(金)18:15~20:00

場 所：札幌市男女共同参画センター

○第2回勉強会 (リージョナルステート研究会と合同開催)

話題提供者：中島 興世 氏 (恵庭市長)

テーマ：「花の街・恵庭のまちづくりと展望」

日 時：平成18年1月16日(月)18:00~19:30

場 所：札幌エルプラザ4階 A会議室

2. 平成18年度の活動計画

平成18年度は平成17年度の活動成果を踏まえ「観光に関する地域の取り組み支援・実践的活動」をテーマとして、技術士の専門性を活かし、地域との連携を志向した以下のような活動を予定しています。

1. 現地視察や現地関係者・地域住民とのコミュニケーション (昨年度の中島恵庭市長の講演を踏まえ、恵庭市の視察を検討しています)
2. 観光振興をサポートできる社会資本の整備・利活用
3. 専門家の目で地域観光資源の発掘、再評価 (お詫び)

コンサルタンツ北海道108号で、最近冬期のオーストラリア人観光客が急増しているニセコ地域への現地視察実施についてお知らせしたところですが、告知が遅れたため、参加者が少なく見送らせていただきました。参加希望いただいたメンバーの方にはお詫びいたします。今冬には再度実施に向けた準備をし、早めにお知らせいたしたいと考えております。

(文責：分科会座長 宮武 清志)

循環技術システム研究分科会

1. 最近の活動

○2月：「地域冷暖房施設見学会」

今年に入ってから活動は札幌市内の(株)北海道熱供給公社の中央・札幌駅南口の両エネルギーセンターの施設見学会で幕を開けました。JR札幌駅の北に立つ赤と白の煙突は誰しも記憶があると思いますが、35年以上に渡って札幌市内中心部に高温水を供給し、多くの熱需要を賄ってきた中央エネルギーセンターです。施設は相当古いという印象でしたが、大変良く整備されていました。また、JRタワー地下には最新の南口エネルギーセンターがあり、JRタワー周辺建物に冷・温熱を供給しています。両施設共普段あまり目にしない施設だけに興味深く見学させていただきました。



## ○4月：講演「北海道における理想エネルギー形態像」

第二弾は北海道大学大学院工学研究科の近久武美教授をお招きして、上記の演題で講演をしていただきました。京都議定書の発効以来 CO<sub>2</sub> 削減の課題は待った無しに我々の前に立ちふさがっています。先端のエネルギー事情と教授が携わっている研究の進展を大変分かりやすく提示していただきました。コージェネレーション、燃料電池他電力の供給形態を含めて様々な示唆をいただきました。

### 2. 今後の活動予定

今年度も勉強会・見学会を中心に、幅広い活動をしていきたいと思っております。新メンバーも増えていますので、興味がある方はぜひおいで下さい。

(文責：分科会事務局 外 朝彦)

t\_soto@ikedan.co.jp

## 地域主権分科会

### 1. はじめに

平成 17 年度から、新しく私どもの「地域主権分科会」が設立されました。当研究会は、地域主権、地方分権、権限委譲、人口減少、市町村合併等私たちを取り巻く社会経済情勢を踏まえて、これからの北海道のまちづくり、地域づくり、社会資本整備のあり方等を幅広く勉強しています。また、技術士としてその成果を、社会に情報発信し、行動することにより社会に貢献することを目的としています。当研究会では、隔月に 1 度程度研究会を開催し、メンバーの自由な発想の下に各種のテーマを議論・検討しています。

### 2. 研究会の活動報告

当研究会は第 1 回目の研究会を平成 17 年 6 月 21 日に開催し、以来、9 月 6 日、11 月 1 日、12 月 14 日、平成 18 年 1 月 31 日と合計 5 回開催し、このほか幹事会も開催しています。今回は第 3 回目の研究会の検討結果を報告します。

第 3 回目の研究会では、次のような意見が出され

ました。

- ・今後の本研究会の検討テーマを探るため、メンバー全員に対して「アンケート調査」を実施した。
- ・アンケート調査の結果からは、本研究会の今後の検討項目として「地域主権」、「人口減少下の社会資本整備」、「地方の経営と社会資本整備」の 3 項目が選定された。
- ・アンケート調査に対して、回答した根拠や自分の熱い思いを、研究会の参加者全員に語っていただいた。

その主要な意見を紹介すると、おおむね次のようになりました。

- ・国のビジョンと北海道庁のビジョン、市町村総合計画との整合性をいかにして図っていくべきかが今後の検討課題である。
- ・技術士が社会に対して情報を発信していくのだから、社会資本整備など自信の持てる分野を中心に検討していくべきである。
- ・地域主義に立脚した新しい北海道のビジョンを検討し、展開していくことが重要である。
- ・地域主権の全体像と地域の具体的なイメージを、どのように具体化していくかが今後の主要な検討課題になる。
- ・地方の生活圏を充足していくためには、広域都市圏が整備していく社会資本とどのように役割分担をしていくかが課題である。
- ・少子高齢化を背景として、地方経営、社会資本整備の方法論を検討していく必要がある。

以上の様々な意見、思いを吐露した後で、さらに情報発信のイメージを具体化するため、アンケート調査結果の上位 3 項目に対して、さらに各人の情報発信イメージを考えることとなりました。これに関しましては、次回に報告します。今回はアンケート調査の結果を、ご紹介します。

このアンケート調査は、地域主権分科会の構成メンバー全員が参加して実施しました。検討テーマは各人が研究したいものを、自由に発想し、追加していく形式にしたところ、最終的に 18 のテーマが提案されました。

調査・集計方法としては、この 18 のテーマに対し

て、一人につき1位から5位までの順位をつけてもらいました。その順位の得点を、1位7点、2位5点、3位3点、4位2点、5位1点として、集計しました。さらにそのテーマ毎の点数の多いものから順位をつけ、最終的に合計得点の多い3つのテーマを選定しました。

その合計得点の多かったものを上位から並べると「地方の経営と社会資本整備」、「地域主権」、「人口減少下の社会資本整備」の3テーマとなりました。

※次回はテーマごとの情報発信イメージについて報告します。

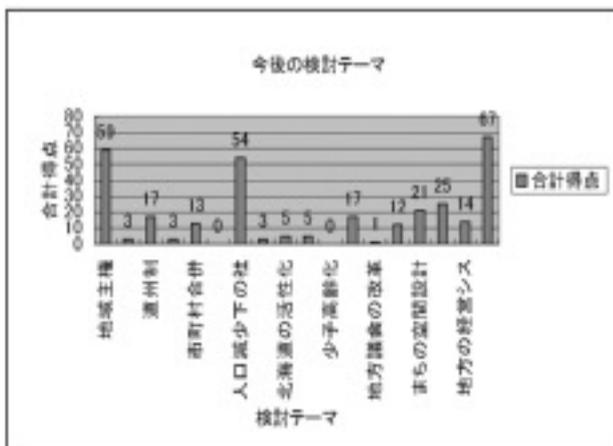
表1 地域主権分科会の17年度の活動内容

研究会の回数	研究会の開催時期	研究会の開催テーマ
第1回	平成17年6月21日	研究会の主旨・会の運営方針
第2回	平成17年9月	市町村合併問題
第3回	平成17年11月	人口減少下の社会資本整備
第4回	平成17年12月	地域主権と権限委譲
第5回	平成18年1月	地方分権と道州制
第6回	平成18年3月	その他の自由なテーマ

(文責：分科会幹事 中田 光治)

表1 今後の検討テーマに関するアンケート調査結果(平成17年11月実施)

NO	検討テーマ	合計得点	得点の順位
1	地域主権	59	2
2	地方分権	3	13
3	道州制	17	8
4	権限委譲	3	13
5	市町村合併	13	8
6	人口減少	0	17
7	人口減少下の社会資本整備	54	3
8	地域経済の再生	3	13
9	北海道の活性化	5	11
10	行政改革	5	11
11	少子高齢化	0	17
12	地方の独自政策	17	8
13	地方議会の改革	1	16
14	国土形成計画の二層の広域圏	12	10
15	まちの空間設計	21	5
16	地方の経営資源の発掘	25	4
17	地方の経営システムの構築	14	8
18	地方の経営と社会資本整備	67	1
	合計	319	...



リージョナルステート研究会

# 「自然科学教育分科会 寿都町サバイバルキャンプ」

開催日：平成 18 年 8 月 4 日(金)～5 日(土)



寿都町の海岸で地引網体験



光合成を色の変化で確認中



年輪の説明



木の種類を教わっています



樹木の高さを測定しています



洗濯のりでスライム作製中



お気に入りの色つきスライムが  
できました



洗剤に砂糖を入れたアメしゃぼん玉



丈夫なしゃぼん玉ができました

## 芽を出した社会貢献



### リージョナルステート研究会

北海道技術士センター理事  
リージョナルステート研究会副会長 Nagase Jiro  
技術士（衛生工学／総合技術監理部門） 永瀬 次郎

リージョナルステート研究会は、北海道の自律と活性化のために、技術士として提案し具体的に実行し、社会貢献を実践することを目的として平成 12 年度に結成されました。結成から 6 年を経た現在は、4 つの分科会に別れ、それぞれが目的意識を持ち、独自の方針を定めて日々活動しております。以降に 4 つの分科会の活動内容をご報告いたします。

#### 1. 自然科学教育分科会

最近の子どもたちは理科を苦手とする傾向があり、いわゆる「理科離れ」と呼ばれる現象が懸念されています。日本は今まで、卓越した科学技術をベースに継続的な発展を遂げてきました。日本の将来を託す子どもたちには、理科に興味を持ち、自然科学の不思議・魅力を理解してほしいと考えております。私たちは、そのためにまず、自然科学に親しむ体験をすることが必要だと考え、様々な活動を実践しております。

現在は会員 28 名に加え、学生などを含むサポーター 39 名の合計 67 名で活動しております。

活動メニューとしては、地域の小学校を訪問しての野外授業の開催や、イモ堀り体験および試食会、「自然体験サバイバルキャンプ」と題した宿泊旅行などを行っています。このキャンプには理科実験教室を盛り込んでおり、実際に目にする海や山の自然に関連した実験を行いますので、子どもたちも興味津々で取り組むことが多く、自然科学の楽しさを味わう事ができているようです。

今後の学校訪問でも、子どもたちがなるべく興味を持つように、それぞれの施設の立地環境に関連した野外授業の開催を行うなどの工夫を凝らしていきたいと考えております。



写真-1 イモ堀り体験を楽しむ子供たち

#### 2. 観光分科会

平成 11 年度～16 年度の観光客は、道内客、道外客、宿泊延べ人数とも減少している傾向がある中で、一部外国人観光客が増加している地域もあります。当分科会は観光をテーマとした地域の取り組みを学び、技術者の立場から支援・提案を実践してゆきたいと考えております。

現在は会員 23 名で活動しております。活動メニューとしては、講師を招いての勉強会やワークショップ、見学会などを主に活動



写真-2 オープンガーデン見学の様子

しております。

7月には恵み野オープンガーデンの見学と恵庭「えこりん村」の環境共生への取り組み状況の見学会を実施いたしました。

町のいたるところに手入れが行き届いた美しい庭があり、それを眺め、会話する観光客の姿があり、「花のまち」としての新しい観光の形ができ始めているようです。また、環境保全への関心が高まる中、「えこりん村」における循環型社会形成を目指した、真摯な取り組み姿勢と環境技術は、技術者の興味を掻き立てる魅力があり、その集大成である庭園と相まって、観光資源としての大きな可能性を感じさせました。

今後も現地視察を積極的に行い、地域住民とコミュニケーションを深めると共に、環境対策など専門家の目から見た、新しい地域観光資源の発掘にも努めてゆきたいと考えております。

### 3. 循環技術システム研究分科会

京都議定書が発効され、循環型社会構築への気運が高まっていますが、具体的環境保全活動はなかなか進んでいないのが現状です。私たちは、北海道を循環型社会とするために、関連技術の現状把握と課題を整理し、社会システムのあり方の提言をすべく活動しております。

現在は会員 39 名で活動しております。活動メニューとしては、会員の専門分野が多岐にわたっている特性を生かし、会員それぞれが講師となり、普段の環境関連活動を講演会形式で発表する事を主としています。また、外部講師を招いての勉強会や、見学会なども積極的に実施しております。最近の講演会事例としては、バイオガス関連施設（中空知 3 施設・別海プラント）、新エネルギー関連（地中熱利用ヒートポンプ・雪氷冷熱利用）、循環資源（ホタテ貝殻による濁水処理）などが有ります。また、西欧の新エネ利用社会システム紹介やサハリンレポートなど海外にも目を向けています。見学会としては、京極揚水発電所と札幌市内のエネルギー供給施設を訪問し、知見を深めることができました。

循環型社会を成立させるためには、個別の要素技術だけではなく、広い視点からの社会システムの見直しが必要です。それには今までと異なる切り口からの検討も必要と考え、試みとして「観光」の視点で、他の分科会との活動の連携も始めております。

以前、有機質廃棄物に的を絞った提言書「循環型北海道を目指して」を発表いたしました。現在は知識醸成の期間としておりますが、一歩進んだ視点で、環境保全に寄与できる成果品を再び発表すべく、活動してゆきたいと考えております。



写真－3 京極揚水発電所見学の様子

### 4. 地域主権分科会

当分科会では地方分権、権限委譲、人口減少、市町村合併、地域経済等私たちを取り巻く社会経済情勢を踏まえて、これからの北海道のまちづくり、地域づくり、社会資本整備のあり方などを検討・研究し、技術士として、社会に提案・提言し、行動することを目的としています。

会員は現在 23 名で構成されています。会員の所属は官公庁、コンサルタント、メーカーなど多岐にわたっており、技術士の登録部門は建設部門を中心に、上下水道部門、農業部門、環境部門等から構成されています。



写真－4 外部講師を招いた勉強会の様子

活動としては、隔月に1度程度研究会を開催し、メンバーの自由な発想の下に各種のテーマを議論・検討しています。最初に議論するテーマは、会員内でアンケート調査を実施し、数多く出された項目の中から支持を多く得た次の3項目に絞りました。

- ① 地域主権
- ② 人口減少下の社会資本整備
- ③ 地方の経営と社会資本整備

今後は2年程度かけ、フィールドワークなども取り入れながら、道内のモデル的な地域を設定し、将来自立していくためのまちづくりのありかたなどの提言・情報発信を行い、北海道の自立と活性化のために貢献していきたいと考えております。

リージョナルステート研究会は、北海道の自律を目指し、今後も楽しい活動を実践していきたいと考えております。少しでも多くの方々が、私たちの活動にご賛同いただき、一緒に活動してくださることを願っております。

# 研究会レポート

## リージョナルステート研究会（北海道技術士センター）

### 若い技術士が活躍できる場

リージョナルステート研究会活動は、分科会を中心に当事者に任せ、現場に入って具体的に実行をすると共に、全体としても、当研究会の主旨の徹底、交流の拡大・レベルアップのために全体行事の開催、相互分科会の案内と事業連携、全体の情報交換会を開催しています。

今年度ももはや半分を過ぎます。新地方制度調査会、道州制案の提出、小さな政府と地方分権、都道府県から市町村への大幅な権限委譲、都道府県の役割や位置づけの再検討などの流れの中で、当研究会の設立主旨である「北海道の自立と活性化」は益々必要なことと強く感じます。

今年の分科会、全体の活動が少し変わってきたように思います。それは実質的に若い技術士が自発的に活動の企画をし、呼びかけ、実行しようとしていることです。各職場で業務を持ちながらも、この研究会に意義を見出して活動していることは、将来必ず、人のつながり、新たな視点、需要者に対する想像力、技術士のあり方などの確立に対して役立つことでしょう。

当該研究会は設置して6年半になります。研究会活動を惰性でやってはいけないと思います。やはり皆さんが集まって、勉強になり、楽しく、刺激的でなければ成らないと思います。そのためには時代の流れの半歩先を考えること、同士を作ること、具体的に行動することと考えます。北海道、市町村、住民からの求めに対して答えられる技術士とは何か、頼りになる技術士を目指そうとするものです。

今年も後半分、とにかくやれることからやってみましょう。

（文責：研究会会長 市村 一志）

### 自然科学教育分科会

#### 1. 教育サポート活動報告

平成18年度の上半期は4件のサポート活動を行いました。

5/11 定山溪中学校 教育サポート

5/20・8/4、5 寿都町 教育サポート

7/22 白石区「月寒川にぎわい川まつり」環境教育参加

8/23・30 清田区シニアスクール

2ヶ月に一度の定例分科会では、これらサポート活動の楽しい♪報告と次回へ向けての反省などを議題としています。



▲ 三角定規を使って樹高を推定だ〜  
寿都町教育サポート「森を学ぼう」の一コマ

#### 2. 今後の活動予定

毎年恒例の寿都町教育サポートでは、今年は春に植えたサツマイモの収穫が11月に予定されています。

清田区のシニアスクールは、地域のお年寄りを小学校に集めてさまざまな専門家が講義を行うという札幌市初の試みで、本分科会は初日の講義から参加しており、今後も数回の講義を行う予定です。

このほか、北広島市教育委員会の「キタヒロ昆虫隊」への参加や学校関係者との交流などが予定されています。

### 3. 本会の紹介（パンフレットの作成）

昨年より進めてきたパンフレットがようやく完成しました!! 作成にあたっては自主制作のためのワーキンググループを立ち上げ、また多くの方のご意見をいただき参考としてきました。主に教育関係者、子どもたち、PTAなどを対象に配布しますが、皆さんに親しまれる仕上がりですので興味のある方は是非ご覧ください。



完成したパンフレットの表紙  
(詳細はHPにて)

### 4. その他

本会の活動が、日経コンストラクションに「特集 ●資格を駆使する技術者たち」として紹介されました。



自然科学教育分科会の中心メンバー。左から赤松周平さん、対馬一男さん、寛さん、細川康司さん。みな技術士の資格を取得している

『日経コンストラクション』2006年7月14日号55ページから転載

\*当分科会では、会員・サポーターを随時募集しております。連絡は、下記までお願いします。

座長：対馬 一男 (E-mail: tsusima.k.@ces.co.jp)

幹事：赤松 周平

(E-mail: akamatsu@kai-koei.co.jp)

(文責：分科会副幹事 野口 昌宏)

## 観 光 分 科 会

RS研究会観光分科会及び循環技術システム研究分科会の共催行事として下記の見学会を開催し、計14名が参加しました。

参加者：市村会長、成田幹事長、観光分科会(宮武、有山、花田、金子、杉本、日浅)、循環技術システム研究分科会(永瀬、外、岸田、岡部、阪、油津)

開催日時：H 18年7月4日(火) 10:00~16:00

スケジュール：

10:30~12:00 恵み野オープンガーデン見学、花キャロット：内倉さん案内

12:00~13:30 JR 恵み野駅よりエコリン村「花の牧場」に移動

13:30~16:00 エコリン村の環境共生取組(榎アレフ：島貫室長説明、太陽、コンポスト、雨水、廃食油、中水等)

### 1. 恵庭オープンガーデン見学

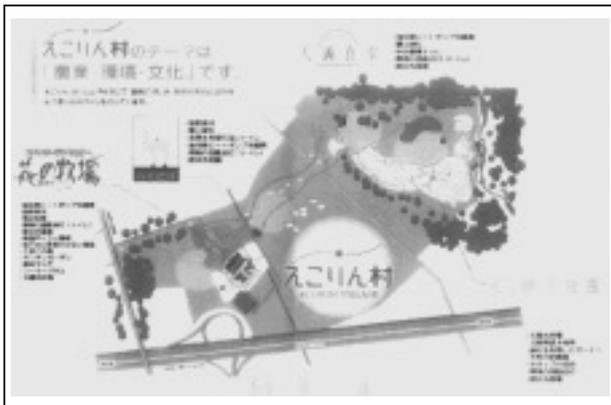


花キャロットのオーナー内倉さんの案内で5件のオープンガーデンを見学。道内一の花産地と、恵庭ガーデンシティのまちづくりが連携し、エコリン村の誘致にもつながっている。一方、来訪者の増加は、駐車違反、プライバシー侵害など近隣住民からマナー違反の指摘も……

## 2. エコリン村

今回の見学会では、アレフの循環型システム・新エネルギーシステムに対する精力的な取組を知ることができました。まず驚いたのはそのメニューの豊富さで、①バイオガスプラント、⑥太陽光発電・太陽熱利用②竹炭・竹酢液、⑦地中熱ヒートポンプ、③ペレットストーブ・薪ストーブ、⑧屋上緑化、④生ごみ堆肥化、⑨自然通風システム、⑤植物油・BDF、⑩中水利用、などがあり、しかも一部は施設内での循環およびグループ内で商品化されています。

経済性の面では厳しいようですが、熱い社長の意欲があり、将来的には環境技術をセールスポイントにする狙いがあるようです。



(文責：分科会幹事 日浅 陽富)

## 循環技術システム研究分科会

### 1. ガーデニングのまちへ

○7月：観光分科会と共催で、「恵み野オープンガーデン」と「えこりん村」を見学しました。

恵庭市の「花の田園住宅地づくり」のプロジェクトが順調に進んでいることを感じてきました。そして、それを担う庭主さんのガーデニングへの熱意と努力には、驚嘆しました。



オープンガーデンの個人の庭

えこりん村では、(株)アレフの環境共生への精力的な取り組みを知ることができました。バイオガスプラント、竹炭・竹酢液、ペレットストーブ、BDF燃料、生ゴミリサイクル、太陽光発電・熱利用、地中熱ヒートポンプ、屋上緑化などの多彩さに驚きと企業としての理念をうかがい知ることができました。



主にビール粕を原料としたバイオガスプラント

## 2. 太陽光発電システムの今

○9月：伊藤組木材(株)太陽光事業部太陽電池パネル工場を見学し、現状と将来について見聞しました。

太陽光発電システムの設置件数は1996年から2004年の8年間で約15倍に、価格は5割程度まで下がっているとのことでした。また、来春には太陽電池パネルに融雪機能を付加して販売し、多雪寒冷地域への需要拡大を図っていくとのことでした。



太陽電池パネルの前で

## 3. メンバー募集

今後も見学会を織り交ぜて、月1回程度の勉強会を行ってまいります。一度参加されてみて、よろしければメンバーになりませんか？

(文責：分科会メンバー 阪 豊彦)

## 地域主権分科会

### 1. はじめに

地域主権分科会は、平成17年6月に第1回の定例分科会を開催して以来、1年間で6回の会合を重ねてまいりました。この間、地域主権とはどうあるべきか、人口減少下における社会資本整備や地域の経営のあり方をどうすべきなのか、技術士としてどのような提案を発信すべきかなど、多くの議論を行ってきました。

ようやくここにきて、「地域主権とは何か」を追求するグループと「これからの社会資本整備のあり方」について研究するグループに分かれての勉強会を行うこととなりました。

勉強会を進めるにあたっては、北海道が推進して

いる地域主権とはどういうことなのかを知ることによって、二つのグループの地域主権に対する共通の認識としたいと考え、6月と7月に講師を御招きしてご講演いただくと共に、道州制・地方分権・市町村合併・地域主権が進展していく中で、どんな「地域のかたち」が描けるのかについて勉強会を行いました。

### 2. 第7回勉強会特別講演会

開催日：6月13日(火) 18:30-21:00

テーマ「北海道の地域主権について考える ― 現状から未来をさぐる ―」

会場：かでの2・7 (1010 研修室)

参加者：地域主権分科会 (16名)、RS研究会 (3名)

配布資料：道州制Q & A (平成18年5月：北海道企画振興部地域主権局)

地域主権型社会のモデル構想(案) (平成18年3月：北海道)

道州制特区の実現状況



— 勉強会概要 —

(1)ご講演：「北海道における地域主権とは」

北海道企画振興部地域主権局参事 出光 英哉氏

- 道州制の歴史的経緯→道庁ではH12年から検討開始
- 道州によって何がかわるか→仕事の範囲が変わる
- 今のままで何が問題か→人口減少、市町村の役割増大
- 道州制による展望→決定権限を持つことにより地域にやる気と力
- 地域主権型社会で大切なこと→補完性の原理など
- 道州制のしくみとポイント→道州制Q&Aより

(2)質疑応答

- Q1** コミュニティを活性化する様々な方策を紹介しているが、具体的な誘導はしているのでしょうか？
- A1** 道としては、地域が主体的に自由にやってほしいという観点から誘導はしていない。
- Q2** UターンやIターンの対応に見られるよう

に、過疎化に対応する方策として、個人対応ではなく組織（一定の地区）として行うという考えはどうか？ 集団で移動することで土地（地域）の利用度が向上する。また、個人に対する移動費用や設備投資負担が軽減される。また、受け入れる側についても一括化が図れる。

- A2** コンサル等の民間レベルの提案となるでしょうね。
- Q3** 道州制に移行する上で、現状における良い部分を残した上でのバランス確保が重要。合理性の追求ばかりではない。のではないのでしょうか？
- A3** 補完性の原理とパターンリズムが重要
- Q4** 今後の人口減少下において過疎集落の一部については、道庁として廃村も視野に入れているのか？
- A4** 撤退、縮小はどうしても出て来るであろう。どのような方向を選択するかは、道庁がどう言う話ではなく、各地域が自ら考える課題であり、地域次第である。

など。

(文責：分科会幹事 中田 光治)

# 研究会レポート

## リージョナルステート研究会 (社)日本技術士会北海道支部/ 北海道技術士センター

### 一層の飛躍のチャンス

リージョナルステート研究会の設立主旨は、北海道の自律のため、北海道の活性化のため、私達技術士が何をする事が出来るか、提案し、身の周りの出来る事から実行してみよう、と言うことです。具体的な活動は、分科会を中心にして、現場に入って具体的に実行をすると共に、全体としても、当研究会の主旨の徹底、交流の拡大・レベルアップのために全体行事の開催、相互分科会の案内と事業連携、全体の情報交換会を開催しています。

先日の臨時総会において、カタカナの研究会の名前についていかなものか、と疑問を呈されましたが、要は名前より活動内容が問題なのです。リージョナルステートとは地方国家（政府）の意味で、地方が自律していかなければならない、という意味でつけたもので、そのためには元気な技術士が必要です。元気な技術士とは、技術や社会の問題・課題を解決に向けてコーディネートできることで、機会ある毎に周りに（社会に）働きかける説得力を持っていることです。

当研究会は準備期間を含めて7年間になろうとしています。この7年間で各技術士が置かれていた立場から、企業、専門、技術の縦割りの殻を破ってきたと言えるのではないのでしょうか。自分達で考え、企画し、人を集めて実行することで、社会貢献に結びついていると言うことです。その実績が着々と積み重なっていると感じます。

北海道には、夕張市の財政破綻、人口減少、公共事業費の減少等待った無しの問題が山積しています。こういう時期にこそ技術士は何か役に立てないかと考えます。これからも、より新しい発想で活気ある研究会にしていきたいものです。

(文責：研究会会長 市村 一志)

### 自然科学教育分科会

#### 2006 年活動のハイライト！

今年度の研究会活動も大詰めを迎えております。忙しかった教育分科会の活動を振り返り、ハイライトで紹介します。

#### 1. ますます充実、寿都町サポート

寿都町教育委員会の絶大なるご支援の末、今年は3件の行事が実現しました。



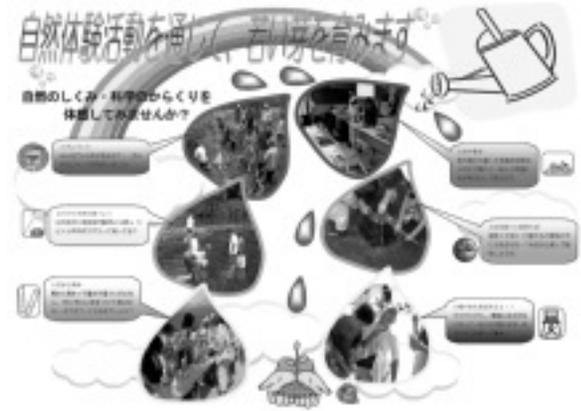
春のイモ植え



夏のキャンプ



秋のイモ試食



パンフレットの中身です

## 2. お年寄りもお相手に、清田区シニアスクール

分科会初の試みとして、お年寄りを対象とした活動（シニアスクール）に延べ5講義参加しました。



シニアがシニアに講義中？

今後も、バラエティに富んだ会員の感覚を大事にして分科会活動をより充実させたいと願っております。

（文責：分科会幹事 赤松 周平）

## 観光分科会（平成18年度活動報告）

観光分科会及び循環技術システム研究分科会の共催行事として下記の見学会を開催し、計9名が参加しました。

- ① 定住・移住促進施策 高齢者配慮 人口減少、少子高齢化への対策が求められる今日、伊達市は長期滞在型観光振興施策、定住・移住促進施策、高齢者配慮等を先進的・総合的に取り組んでいる。
- ② 環境・リサイクル対策 環境配慮への対策が求められる今日、伊達市は全国でも早期にごみの有料化に踏み切るとともに生ゴミなど堆肥化、美化サポートなどに取り組んでいる。

## 3. ついに完成、パンフレット！

前回は紹介しておりましたが、念願のパンフレットが完成し、2,000部を印刷しました。さあ、これから張り切って宣伝です。



ワーキンググループによるパンフレット検討会



伊達市担当者からのヒアリング調査

参加者：市村会長、成田幹事長、観光分科会(宮武、有山、日浅) 高橋、循環技術システム研究分科会(永瀬、田川、山田) 計9名

開催日時：H18年11月2日(木) 9:00~18:00

スケジュール：

13:00~14:00 伊達市役所にてヒアリング調査

○住んでみたいまちづくり課

伊達ウェルシーランド構想にみる伊達市の長期滞在型観光振興策、定住・移住促進施策

○環境衛生課

ごみの有料化、堆肥化、美化サポートその他環境美化・リサイクル関連施策

14:00~16:00 現地見学会

優良田園住宅建設事業見学(公募事業による移住者等の田園住宅地開発)、堆肥センター見学等(生ごみ、水産・畜産残渣などの堆肥化)



優良田園住宅制度による移住団地用地



堆肥センター見学

(文責：分科会座長 宮武 清志)

## 循環技術システム研究分科会

### 1. 講演会

○10月：しばらく見学会が続きましたので、一息入れて2日に講演会を企画しました。テーマは「公共工事における総合評価落札方式の現状について」で、講師はメンバーの阪技術士にお願いしました。総合評価落札方式の概要、導入事例、問題点と日常的・实际的な経験を交えて、お話していただきました。

### 2. 伊達市見学会

○11月：この月は2回の催しが行われ、第一弾は7月に続いて観光分科会とのコラボレート行事の「伊達市見学会」を2日に実施しています。こちらの方は観光分科会にて詳細が報告されると思いますので、内容の紹介は譲ることにします。

### 3. スーパーエコビル見学会

○11月の第二弾は大成建設株式会社札幌支店新社屋、通称「スーパーエコビル」の見学会を13日に実施しました。大成建設の皆さんは、午後6時からという遅い時間の見学会を快く引き受けて下さいました。前評判の通り外断熱構造、制振システム、自然採光、自然通風、床冷房他最新の技術がふんだんに使用されると共に、コスト面に配慮された大変バランスの取れた設計がなされ、一同感嘆して見学したものです。



自然採光用ミラー (T社パンフレットより)

### 4. くじら亭にて懇親会

○12月18日は懇親会でしたが、少し趣向をこらし

て、北海道唯一のくじら料理専門店の女将が東京農大の客員教授をしている関係で、現在の商業捕鯨の状況等、鯨に関する講義を30分程聞いて、その後懇親会を行った次第です。

(食の循環ということになるでしょうか…)

今年も様々な企画を行ってきましたが、さて、来年はどうなるでしょうか。

(文責：分科会事務局 外 朝彦)

## 地域主権分科会の活動報告

### 1. はじめに

地域主権分科会は、平成17年6月に第1回の定例分科会を開催して以来、1年半の間に合計10回の会合を重ねてまいりました。この間、地域主権とはどうあるべきか、人口減少下における社会資本整備や地域の経営のあり方をどうすべきなのか、技術士としてどのような提案を発信すべきかなど、多くの議論を行ってきました。

ようやくここにきて、北海道を地域的に制約を設けることなく、道内での生活・生産に関わる諸課題を踏まえた社会資本のあり方及び整備について検討するAグループと、地域的な特色を鮮明にすることに努め、より地域特性を具体的に反映させた社会資本のあり方及び整備について研究するBグループに分けて勉強することになりました。

勉強会を進めるにあたっては、北海道が推進している地域主権とはどういうことなのかを知ることによって、二つのグループの地域主権に対する共通の認識としたいと考え、6月と7月に講師を御招きして勉強会を行いました。

### 2. 研究会の活動報告

今回は、7月28日(第8回分科会)に行った勉強会について報告します。第8回分科会は、特別講演会としてテーマを「地域の実態を踏まえたこれからの北海道のあり方、地域のあり方について考える～自治のかたちをさぐる～」と題し、講師として北海道日高支庁参事の本本晃さんをお願いしました。

本本講師からは、現在日高地方で主宰しておられ

る「困っているんじゃない会」の活動状況のお話がありました。例えば、

(1) 地域の状況に関しては、

- ① 金を儲けることは考えるが、金を使うことを考えていない
- ② 「レンガを積む」仕事を単なる仕事ととらえるか「まちづくり」と考えるのか
- ③ マイナスをプラスに転換する——見方によっては欠点も魅力となる得る

(2) 困っていることに気付くに関しては

- ① 困っていることに気付いていない、気付いた人が動くべき
- ② うまくやるにはツボを探す必要がある

(3) 仲間を見つけるに関しては

- ① 仲間とは同じものを共有できることが大切
- ② 仲間のいる所、守るべきものがあるところが「まち」である

(4) できる人ができる時にできることから始めるに関しては

- ① できないことは諦め、できる努力をしたい
- ② リーダーがいらないからできないわけではない

などの示唆に富むお話がありました。また、講演の後の質疑応答では、分科会メンバーから幾つかの質問が出されましたが、それに対して本本講師から懇切丁寧な回答をしていただきました。例えば、「北海道のまちのありかたとしてタイディタウンの話をしてほしい。」との質問に対する回答では、「タイディタウンとはアイルランドの美しい街のコンペで45年程度続いている都市づくり運動で、これにより観光客が増え、美しい国になり、産業も興った。タイディタウンコンペにはスポンサーが付いており、このスポンサーの意向と評価で賞がとれる仕組みもできている。」というものでした。

また、「地域主権を考えてみたが、地方から望むべき姿を発信しないと成立しないが、地方にそのエネ

ルギーがあるのだろうか。」という質問に対しては「地域の問題点とは、困っていることに誰も気付いていないことが問題である。誰かがしてくれる、何とかするということではなく、あなたがしなければ前に進まないということ、地域コンサルとして、住民の人たちに教えていかなければならないのではないか。テクニカルなこと（資金や制度）を教えるのではなく、地域のネックは何かを教えることが大切なことだ。街の人たちは道庁が金をだしてくれないとか外から来た人が何もしてくれないなどの不平不満を言うが、自分たちで自主的に何かをすること、行動を起こすということが、とても大切なことを、理解して貰うことが最も大切だと思う。」というアドバイスをいただきました。

このほかにも活発な質疑応答がなされて、2時間の講演予定時間はあっという間に過ぎ去りました。

### 3. 今後の活動予定

今回の講演会のまとめとして、須藤座長から、「まず、お礼を申し上げます。実践の伴ったお話をいただきまして、大変ありがとうございました。前回の出光参事のお話同様、地方分権の制度から地域主権へと現状の制度を乗り越えていかなければならないと感じました。地域の住民にとっては日常生活圏の充実は分かりやすく、安心、安全、教育等の身近な

問題から。解決していかなければならないことを痛感しました。

本本講師が主張されたコミュニティ・人のつながりが大切だという考え方に賛同します。さらに住んでもらうためにはコミュニティが必要ではないかという考え方も同感です。今後は私たち技術士だけではできないこともありますので、仲間を集めて情報の共有化を行っていく必要があると感じました。」というお礼の言葉がありました。

今後の私たち分科会の予定ですが、メンバー25人を本人の希望によって、2つのグループに分けました。一つは「人口減少下での社会資本整備のあり方を研究するAグループ」、「ケーススタディ都市を選定して、実際に社会資本整備の計画案を策定するBグループ」です。現在、この二つのグループの幹事、副幹事を中心にグループ討議を行っており、近いうちに両グループから検討成果を発表する機会を持ちたいと考えています。

北海道技術士センターも日本技術士会北海道支部と統合されました。私たち地域主権分科会はこれからも道内は勿論、道外の技術士や国民に向けて情報を発信し、社会貢献を行っていきたいと考えています。本会会員の皆様方のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

(文責：分科会幹事 相内 啓二、中田 光治)



# 自然科学教育分科会の活動記録



2007年1月13日実施 キタヒロ昆虫隊 教育サポート「橋の模型作り」



2007年1月31日実施  
清田区民シニアスクール  
4回目「波を使って  
ものを見る」



2007年2月14日実施 清田区民シニアスクール  
5回目「水の科学（支笏湖を通して）」



2007年2月17日実施  
キタヒロ昆虫隊 教育サポート「空中散歩」



2007年5月22日実施  
定山溪中学校 教育サポート「ダムの話」

# 活動レポート

## リージョナルステート研究会

### 平成19年度新体制

北海道技術士センターが、(社)日本技術士会北海道支部に統合され、新たな枠組みでのスタートとなり、リージョナルステート研究会(RS研)も新しい体制で運営されていくようになりました。新体制のメンバーを紹介いたします。

- 代表 北越 正生 (建設、総合技術)
- 副代表 永瀬 次郎 (衛生工学、総合技術)
- 副代表 対馬 一男 (建設、総合技術)
- 幹事長 成田 登 (衛生工学、総合技術)
- 幹事 赤松 周平 (応用理学、総合技術)
- 幹事 宮武 清志 (建設、総合技術)
- 幹事 日浅 陽富 (建設、総合技術)
- 幹事 阪 豊彦 (建設、総合技術)
- 幹事 須藤 靖彦 (建設、総合技術)
- 幹事 荒 精一 (建設、総合技術)
- 事務局長 大谷 高志 (建設)

この研究会は、バブル経済の崩壊等で北海道が社会的にも経済的にも疲弊しはじめていた頃に、自律と活性化を進めるために技術士として何か貢献できるものはないのか、という問題意識のなかからスタートいたしました。発足当初から分科会を中心とした活動を展開しており、発足に係わった会員の方々は、複数の分科会に所属して活動を盛り上げ、研究会の活動の下支えをされてきたと伺っております。今一度、発足の精神を理解し、前会長を始めとした先輩達の功績を学び、これからの活動に活かしていきたいと考えております。

(文責：研究会代表 北越正生)

### 自然科学教育分科会

#### 活動報告 (1月～3月)

##### 1. キタヒロ昆虫隊 橋の模型作り (1月13日)

鈴木正良さんのデビュー戦。小学1～6年生7名の子ども達を相手に、奮闘されました。黙々と模型

を作る子、おしゃべりに夢中な子、様々でしたが、時間一杯で何とか作り上げ、皆大喜びでした。

##### 2. 清田区シニアスクール 4回目 (1月31日)

成田登さんによる、「波を使ってものを見る」の授業でした。19名のシニアの方を相手に、ものが見える仕組み、波の種類、波の伝わり方など、日常生活にフィットした楽しい授業でした。

##### 3. 清田区シニアスクール 5回目 (2月14日)

板谷利久さんによる「水の科学(支笏湖を通して)」の授業が行われました。板谷さんが一人で対応され、面白い話で大いに盛り上がったとのこと。なお、当分科会で実施した5回の授業はアンケートの結果、概ね好評が得られております。

##### 4. キタヒロ昆虫隊 空中散歩 (2月17日)

佐藤芳伸さんによる空中写真実体視の実習。北広島市の空中写真を教材に、小学1～6年生9名を対象として実施しました。思いのほか、子ども達が空中写真になじんでいる様子に驚かされました。また、ポラロイド写真で、自分の姿が立体的に見える様子に皆大喜びでした。(文責：分科会幹事 赤松周平)

### 観光分科会

観光分科会では、今回、少し視点を変え最近、自由な発想力を引き出す能力開発ツールとして注目されている「マインド・マップ」入門講座を開催しました。



- ◆テーマ 「創造力・発想力を高めるマインド・マップ入門講座」
- ◆講師 倉増充啓 氏 (北の企画室代表取締役)
- ◆日時 平成19年3月6日(火)18:00～20:00(終了後、情報交換会を開催)
- ◆場所 男女共同参画センター 大研修室C (札幌)

